

幣原喜重郎生誕150年記念 映像作品

あの敗戦という苦しい、先の見えない時代に、
幣原喜重郎という一人の男が、
人類の平和を守るにはこの道しかない、と
訴える姿から平和の尊さを考えてもらいたい。
そんな風に思っています。 — 出演者からのコメント



してはら

— かどま市が生んだ日本の総理 —

脚本・監督：齋藤 勝 監修：堀尾輝久

cast 要 冷蔵 (劇団往来) Antonio Rossi (AatCaP Corporation) 長尾明依 菊地 潤 高篠彩香 他
staff 撮影：前田智広 (Light House) 音楽：桂 牧 (ジギタリスレコード) 助監督：亀井太一 制作統括：戸田伸夫

2019年度文部科学省選定作品

戦前・戦後、日本の平和外交に尽力した幣原喜重郎 門真市出身の総理大臣が憲法に託した想いとは

幣原喜重郎の秘書であった平野三郎氏の「平野文書」には、「幣原は、終戦後、首相として当時のGHQの元帥マッカーサーと会談し、平和主義の重要性・戦争放棄などを主張し、日本国憲法の草案にはその考えが反映されることとなった」と記されています。

世界中にはさまざまな憲法がありますが、戦争の否定だけでなく戦力の不保持までも明確に定めている憲法は多くはありません。法成立の過程については、さまざまな文書や考えがあり、マッカーサー元帥の発案でGHQから押しつけられた、との説も根強くあります。

当委員会の製作している映画では、私たちの独自の調査や、「平野文書」などを参考にしながら史実を追い、憲法制定に直接関わった幣原喜重郎の実像と、幣原がどんな想いをもち、どういう形で憲法制定に結びつけたのかをドキュメンタリー的にまとめています。

「日本や世界、人類がこの先を生き延びていくためには、世界中から武器をなくし、戦争をしない世の中にしなければならない」と訴えた幣原の意志を、いまこそ伝え、広めたいと思っています。

幣原喜重郎生誕150年記念事業・実行委員会



幣原喜重郎 してはらまきじゅうろう

1872年9月13日、門真市で生まれる。
東京帝大英法科卒業。外務省入省。
1919年駐米特命全権大使となる。
1921年ワシントン会議に全権委員として出席。
1924年に加藤高明内閣の外務大臣に就任。
以降、外相を歴任し、アメリカの排日問題、対中政策の改善、ロンドン軍縮会議批准等に努め、軍縮と国際協調を基調とした「幣原外交」をすすめるも、軍部からは「軟弱外交」と非難され、
1931年に政界を引退。
終戦後、天皇からの懇請を受け、
1945年首相として政界に復帰。新憲法制定等に携わる。
その後、進歩党総裁、衆議院議長等を務め、
1951年 死去。

あらすじ

平和憲法が登場し、その原案の発案者が幣原であることから映画は始まります。

幣原が生まれた大阪府門真市の風景から、外交官、外務大臣時代の経歴を追い、幣原の研究者である、堀尾輝久・東大名誉教授の解説へと続きます。

幣原とマッカーサー元帥の会談や、参考文献となった



「平野文書」を残した、秘書の平野三郎との会話シーンもドラマティックに再現しました。

昭和20年8月15日終戦の日、電車の中で、一人の人物が叫ぶのを幣原がじっと聞き入る場面は圧巻。戦争とは何か、戦争に翻弄されるその時代に生きる人々の声に、戦争や平和について深く考えさせられる内容になっています。



要 冷蔵



Antonio Rossi



高篠彩香



司会 長尾明依



解説 堀尾輝久

しろい・九条の会映画会 ご案内

今回のテーマは
「幣原喜重郎」

「第22回憲法を考える映画会」

- 1月26日(日) 桜台セブ-視聴覚室 13:30~15:40
- 2月16日(日) 白井駅前セブ-視聴覚室 13:30~15:40

*上映終了後に皆さんで“おしゃべり会”を計画します。*入場は無料です。
*西白井複合センターは3月30日(日)の予定です。

問い合わせ：大石 TEL 047-491-5335